

平成27年度授業改善推進プラン 《理科》 西東京市立ひばりが丘中学校

●全国学力学習状況調査(中3)

課題の見られた問題の概要	結果
13時から16時の4つの気象観測の記録から最も高い温度を選ぶ。	48.5%
同じ量の水に同じ量の炭酸水素ナトリウムと硫酸ナトリウムをそれぞれ加えた時、どちらが炭酸ナトリウムであるかを選ぶ。	35.8%
水上置換法では二酸化炭素の体積を正確に量れない理由を説明する。	39.4%

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(中2)

課題の見られた問題の概要	結果
取り出す力に関する問題	51.7%
読み取る力に関する問題	34.2%
解決する力に関する問題	42.2%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
教科の内容(4観点)における、基礎・基本の習得については、都の平均を3～10ポイントほど上まわっており、3年間を通じた基礎の徹底については、一定の成果が見られていると考えられる。	読み解く力に関する内容(取り出す、読み取る、解決する)について、都の平均は上まわったものの、記述式の問題や読み取る力を問う問題についての正答率は3～4割程度にとどまっている。

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
ここ数年は、どの学年も、落ち着いた環境の中で、生徒は、授業に集中し、前向きに取り組んでいる。毎年、私立の受験組は2割程度。1年次は、基礎基本の徹底と授業規律の確立。2年次は既習範囲とのつながりと重視しながら、知識の積み上げを行い、3年次は、受験に対応できる力を高めながら、生活に関わる科学知識の習得に力を入れている。	素直で真面目に取り組む生徒が多い半面、自分の「考え」や「行動」に自信が持てずに、自分の「言葉」で表現できない生徒が多い。積極的に、授業に参加しながら、自分の意見や考えが、活かされる場面をつくるなど、「自己有用感」を高める取り組みを盛り込んでいく。

●学年ごとの課題及び改善策等

学年	生徒の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
1年生	基礎・基本が身につけている生徒が多いが自らの考えを記述したり、発表することを苦手とする生徒が多い。	実験や観察の時間を多く設定し、アイデアボード等を活用したアクティブラーニングを展開し、思考力、判断力、表現力を育成していく。
2年生	調査結果にも表れているが、読み取る力が極端に低い。また、自身の考えを元に、問題を解決したり、考察する力も低い。	教科書をきちんと読み込み、その知識を元に考える習慣付けを行っている。また、話し合い活動時に「アイデアボード」を活用し、自分の考えの有用感を高めながら、他人の意見と協調し、高め合う言語活動の強化を図っている。
3年生	調査結果からもわかるように、基礎・基本は習得できているものの、まだ読み解く力に課題がある。自らの考えを表現する力や考察する力に課題を残している。	1年次から継続して観察・実験を数多く取り入れ、実体験に基づく理解を深めている。常に自分の言葉で予想を立て、自ら結果を考察し、付箋などを使った話し合い活動や発表を通して思考力・表現力を共に高めよう指導している。

●学校全体で取り組む内容

<p>①授業の導入における、生徒の興味・関心を高める指導方法の工夫。 ②開始20分に授業の「山場」(＝焦点化)を設ける、授業のユニバーサルデザイン化。 ③効果的な教具を活用しながら、言語活動を行い、自己有用感を高める。 ④(個人⇒集団⇒個人)最後は、個人の考えを確立し、自分の言葉で考察するための、科学的思考力を高める。</p>
--